

## 保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人池内福祉会
施設名	まつかぜ保育園
報告者（役職）	堀江京子（園長）
住所・連絡先	名古屋市昭和区松風町3丁目2番地
	☎052-853-6800 E-mail matsukaze@sage.ocn.ne.jp

### ○タイトル（保育計画）

思いっきり身体を動かして主体的に遊べる環境作り  
そして保護者と、子どもの育ちを共有しよう

### ○主な助成備品

神賀木製遊具、巧技台、はしご、鉄棒、マット、音響アンプ

## 1. 保育計画策定の目的

乳幼児期の子どもたちの主体的な生活や、発達を保障するうえでは、仲間たちと思いっきり走り回ったり、身体全体を動かして遊ぶことができる環境が欠かせない。

しかし都会の中の保育園には土の園庭の十分な広さを確保することが難しく、屋上を園庭代わりに活用せざるをえない。さらに園周辺には大きな公園がない状況でもある。できる限り子どもたちが日々の生活の中で、自ら選択しながら全身を使って遊べる環境設定を保障したい。

また「親子であそぼう会」（運動会的なもの）や学習会、懇親会等を設定することで、子どもたちの日々の姿や発達の状況を、保護者との交流の場を通じて共感したい。

## 2. 具体的な実施内容

神賀木製遊具や巧技台は細かいパーツに分かれていて、組み合わせが自由にできるので、ホールや屋上園庭に設営して、乳児が遊べる簡単な構造や、時には大きな構造を作ったりしながらダイナミックに遊べる環境設定をした。

午前中の課業の時間には、戸外へ散歩に行くことや、土のある小さな園庭で遊ぶこと、屋上で巧技台等の構造で遊ぶこともでき、子どもたちの選択肢の幅が広がることはより生活を主体的で生き生きしたものにとできると考え、子どもたちの声をききながら選ばせることを重視して実施した。また午後の時間帯や土曜日にも、ホールで神賀木製遊具のジャングルジムやすべり台を組み合わせる構造を作り、1歳から5歳までの異年齢の子どもたちが自由に関わりながら遊べるように設定した。

また秋には「親子であそぼう会」を実施して、子どもたちが普段遊んでいる様子を紹介

しながら、親子で共に遊び、交流する場をもった。年4回のクラスごとの懇談会や年1回の個人懇談会、保育参加などを行い、子どもたちの過ごし方や発達の状況について共有できる場を持つように努めている。

### 【保育の実際】

小さな、最低基準ぎりぎりの広さで建てられた保育園、2階部分に3つの保育室があり、それぞれの部屋で18~20名の1歳から5歳の異年齢の子どもたちが日々生活をしている。室内は、食べる、寝る、遊ぶスペースを分ける設定をしてはいるが、時間帯によっては室内は全て遊びスペースとなる。

1階外部には小さいが土や砂のある園庭、保護者の協力も得て小さな畑も作り、夏場は子どもたちが野菜を栽培して収穫、給食室と連携して料理活動をする。暖かくなる時期には園庭の土や砂、水を使って「どろんこ遊び」も展開する。

1階にあるホールは14時までは子育て支援室となり、地域の親子が自由に訪れて過ごすため、園児は午前中は使用できないが、午後から夕方にかけては使用できる。ここでは神賀遊具のジャングルジムや斜面、はしごを組み合わせたの遊びを楽しんでいる。

また隣の部屋で過ごす0歳児の子どもたちも、すべり台の昇りすべりや、ジャングルジムの横にしてのトンネルくぐりを楽しむ姿もある。

3階は屋上になっており、夏場はプールを設営する。屋上は夏場以外にも園庭代わりの貴重なスペースであり、とはいえ固定遊具が置けるわけではない。ここでの遊び方は開園当初から課題であった。新園では当然集団遊びの経験の少ない子どもたちが大半であり、異年齢保育でのねらいとする遊びの伝えあいも最初からは期待できない。子どもたちが主体的に選びとって遊べる空間、環境の設定は重要だと考えてきた。

それぞれのスペースが園児全員で過ごせるほど広いスペースではなく、クラスごとに毎日の過ごし方を決めて子どもたちは遊びに向かうので、どこも小グループでの遊びが広がる。室内での遊びも、近くの公園やどんぐり広場ももちろん選択肢である。2階にある保育室からは1階上に上がれば屋上での遊びができ、1階下に降りればホール（子育て支援室）、園庭、園庭から園外の公園やどんぐり広場へ散歩に行くことができる。但し階段を使っての移動は1、2歳児にとっては大人の安全面での配慮が要る。

1歳児や2歳児にとってはよちよち歩きの探索遊びや、くぐったり昇ったり、すべりおろたりちょっとした段差からのジャンプなど、自ら身体を動かして遊べる環境が欠かせない。2階の3つある保育室の真ん中の部屋に置いた神賀遊具のすべり台は、1歳から2歳の子どもたちにとっては自由に身体を使って遊べる大好きな空間となり、様々な遊びが広がっている。朝、夕の受入れ時間に集合する部屋でもあり、登園時や延長保育の時間帯にすべり台やジャンプを楽しむ姿もある。

### 【具体的な実践例】

#### ① 2017.12.18 (1歳～5歳児・屋上の大アスレチック)

部屋でクリスマスの飾りづくりをして遊びたい子どもたちと別れて、11名の1歳から5歳の子どもたちが屋上で遊ぶことになった。届いたばかりで屋上の倉庫に収納してある巧技台やはしご、平均台、マットを全部出して組み合わせ、大アスレチックを作った。大喜びの子どもたち、やる気満々。斜面を昇り、はしごの橋を下って昇り、平均台の橋を渡り、坂道を下り、昇り、最後に大ジャンプ！ 途中からジャンプする子、はしご渡りはちょっと怖くて、でもそのスリルを味わう子、はしごの途中から抜け出る子、大人に手を持ってもらいながら挑戦する子、それぞれ思い思いに遊んでいた。

#### ② 2018.4.9 (1歳～5歳児・屋上の大アスレチック)

朝の相談では、天神公園へ行きたい子どもたち、でもかなり時間が押しているので行っても少ししか遊べないこと、屋上なら今からでもいっぱい遊べることを伝えると、「屋上にする！」と即決の5歳児、どうしても天神公園に行きたいという3歳児を説得してみんなで屋上へ。

屋上では巧技台やすべり台、はしご、平均台、ステンレス棒、マットを組み合わせ大アスレチックを作って遊んだ。平均台の二本橋やステンレス棒の斜面昇りはやや難しいので、大きい子どもたちにとっては挑戦しがいがあり、むずかしくて、おもしろくて嬉しそうに挑戦。2歳児は片手で支えてもらいながら、1歳児はくぐったり、すべり台をすべったりジャンプを楽しんだり大盛り上がりであった。途中からは他のクラスの子どもたちも合流して楽しんだ。



#### ③ 2018.3.5 (1歳～5歳児) (保育室のすべり台)

雨のため室内でコーナー遊び、「すべり台を出してまわりを海にして」という子どもたちの声から、保育室に置いてある神賀遊具のすべり台、はじめは“ワニと海”のイメージで遊んでいたが、斜面部分と階段部分の間にはしごを入れてやると、“トルル（絵本「三びきのやぎのがらがらどん」）ごっこ”に。布団庫の下の空間に大きな風呂敷布をつるして、その下から「だれだ～。おれの橋をガタゴトさせるやつは～」とトルルが登

場、「キャーツ」としばし大盛り上がりで遊んだ。他のコーナーでは折紙やおひなさま作り、ピクニックごっこなどが展開してどの子どもも好きな遊びに夢中になっている。

### 3. その成果と評価

巧技台や木製遊具等一連の運動遊具を使って、子どもたちがわくわくして遊べる保育環境を提供することができたことは貴重であった。

特に園庭の一部である屋上の環境設定は、開園当初は古タイヤを数個と家庭用の可動式のすべり台 1 個のみであった。巧技台やマットがあればと夏頃一定数は購入したものの、1 クラス 20 名近い子どもたちが遊ぶには到底足りず、物足りない状況であった。助成によって増量することができ、今屋上中に展開できるほどの運動遊具を使って子どもたちは本当に嬉々として遊んでいる。

実践例のようにそれぞれの年齢の子どもたちが、自分たちで思い思いに遊べる空間が提供できているのは、この遊具を導入した大きな成果である。そのうえで子どもたち一人ひとりの“やりたい気持ち”を大事にしながら、それぞれの発達要求に見合った活動を保障できているのではと思っている。

子どもの成長は数字や量で押し量れものではない。狭いながらも園舎全体を遊び空間にして毎日楽しそうに生活できていることが、子どもたちの今を大事にすることに繋がり、一人ひとり尊重されることによって、自分も友だちも大事であることを学んでいるのではないだろうか。

保護者ともそうした子どもたち一人ひとりの日々の生活の状況や成長を、懇談会や「親子であそぼう会」などの行事を通じて共有することができているように思う。

### 4. 今後の課題と展望

都会の中の保育所は、自然環境に乏しく、人が育つうえでは大事であろう環境には程遠いかもしれない。そしてまだまだ子どもたちがいつでもやりたいと思う活動を自由に体験できている状況では決してない。しかし空間的な制約がどうしてもつきまとう中ではあるが、今できる最大限の環境を提供したいと考えている。いずれ、できれば隣接地を購入して園庭を広げたいと考えている。

今でも月に 1 回は公共交通機関を使って、大きな公園や自然を求めて幼児（3 歳、4 歳、5 歳児）には遠出をさせている。保護者の作ってくれるお弁当と相まって、子どもたちの楽しみにしている活動でもある。

1 年を経過して子どもたちは着実に成長し、様々なことができるようになり自信をつけている。仲間どうしの関りも深くなり、保育園が安心できる居場所となっていることを感じている。玩具や教材も徐々に充実させてきた。しかしまだまだ遊びの質を考えた時に使いこなせているだろうか。巧技台や神賀木製遊具ももう少し計画的に使用することでつける力も違ってくるのではと考えている。もっと活用していきたい。